



身近な野鳥が絶滅危惧種に

2026年3月に発行された環境省「第5次レッドリスト」では、身近な野鳥が新たに絶滅危惧種に指定されたり、危険度のランクが上がったり下がったりといった動きがありました。

今回はその中から、主に旭山記念公園に関わりのある野鳥について取り上げます。

- 旭山記念公園で記録された120種のうち、以下の19+2種が絶滅危惧種に指定されています。
()は第4次から変動があったもので、旧ランクから(—は未指定)、↑はアップ、↓はダウンです。
- ・IA類(CR)※Critically Endangered 深刻な絶滅の危機に瀕している種：アカモズ(EN↑)
- ・IB類(EN)※Endangered 絶滅の危機に瀕している種：オオセグロカモメ(NT↑)、クマタカ、チュウヒ、オオムシクイ(DD↑)、カシラダカ
- ・II類(VU)※Vulnerable 絶滅の危険が増大している種：ハリオアマツバメ(—↑)、アマツバメ(—↑)、ゴイサギ(—↑)、オオワシ、オジロワシ
- ・準絶滅危惧(NT)※Near Threatened 存続基盤が脆弱な種：ヒシクイ(VU↓)、クマゲラ(VU↓)、エゾライチョウ(—↑)、ヨタカ、ハイタカ、オオタカ、ハヤブサ(VU↓)、ビンズイ(—↑)
- ・情報不足(DD)※Data Deficient=現状を判断するには生息数や繁殖環境などの情報が不足している種。少ないことには変わりはなく注意が必要：ハチクマ(NT)、ギンザンマシコ(—)
- オオセグロカモメ：旭山での観察機会は少ないですが、札幌都心部でも見られ、海辺で多く見られる種であるものの、ここ20年で急激に個体数が減少しており、一気に2段階上がりました。
- ビンズイ：春と秋に旭山で見られ、山地で繁殖しますが、個体数は元々多くはないらしく、今回準絶滅危惧に指定されました。今年も旭山で5月に見られました。
- オオムシクイ：5月下旬から6月中旬に「ジジロジジロ」という囀りが比較的良好に聞かれ、住宅街の公園にも時々来ますが、実は絶滅危惧IB類に指定されるほど数が少ないということが分かってきました。
- クマゲラやハヤブサのように危険度のランクが下がった(いずれもVUからNTへ)種もあります。しかし、下がったからといって安心はできません。少しの環境変化でもまた状況が悪化する可能性もあります。



クマゲラ雄(撮影地・旭山記念公園)



オオセグロカモメ(八雲町)



ビンズイ(旭山記念公園)



オオムシクイ(旭山記念公園)



コヨシキリ(屯田遊水地)

●なお、ランクが下がり指定外になった野鳥として、マガンとミサゴ(いずれも旧NT)がありますが、確かに両種ともここ10年ほどで観察機会は増えていると感じられます。

●旭山では記録がないものの、絶滅危惧種に指定されているなじみのある野鳥も挙げます。

- ・IA(CR)：シマアオジ
 - ・IB(EN)：シマフクロウ(CR)、
 - ・II(VU)：キンクロハジロ(—)、パン(—)、ウミネコ(—)、コサギ(—)、ヤマセミ(—)、
 - ・準(NT)：スズガモ(—)、タンチョウ(VU)、トウネン(—)、オオジシギ、コヨシキリ(—)、
- II類の5種およびスズガモ、トウネンとコヨシキリは、未指定から今回指定となりました。
コヨシキリは、数年前まで屯田遊水地で普通に見られていたものの、ここ2年ほどでほとんど見ないくらいに減り、気にかけていましたが、それはその場所だけの問題ではないのかもしれませんが。
なお、シマフクロウとタンチョウは長年の保護活動の結果、ランクがそれぞれ1つ下がりました。
- 環境の変化に敏感な野鳥もいるため、環境には気を留めながら野鳥観察したいですね。

旭山野鳥メモ 79 ジュウイチ

ジュウイチ Northern hawk-cuckoo *Hierococcyx hyperythrus* カッコウ目カッコウ科

夏鳥。人気(ひとけ)のない深い広葉樹林に住み、市街地付近にはほとんど来ない。旭山では移動時期の5月に何度か記録がある。6月に円山から鳴き声が聞かれたことがある。見た目がオオタカやハイタカに似るが(英名の由来)、成鳥は胸から腹に縞模様がないので分かる。

主にコルリに托卵し子育てさせる。雛は翼の上端に黄色い部分があり、あたかも3羽の雛が口を開けているように見せかけ、親により多くの餌を運ばせて成長を促進させるという驚きの研究結果も発表されている。

「ジュウイチ」と聞こえる鳴き声が名前の由来。夜に鳴き、その声を何度か続けた後に「ジュッ」と何度か鳴いて一連のフレーズが終わるため、鳴きやむタイミングが分かりやすい。

その鳴き声から古くは「ジヒシンチョウ」「慈悲心鳥」と呼ばれ、「十一」とともに俳句の夏の季語。

十一や那須雲上の宿に着く 皆吉爽雨 の句のように深山幽谷のイメージとつながりやすく、山地では鳴き声はよく聞かれるものの、姿はなかなか見られない。人とは距離がある存在といったイメージが強い野鳥だ。



2026年5月の野鳥トピックス

●2026年夏鳥初認日リスト ()は前年比、空欄は昨年春の記録なし

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 01 ホオジロ 3月28日 (5日遅) | 02 キジバト 3月28日 (2日早) |
| 03 ルリビタキ 3月29日 (29日早) | 04 ヤマシギ 4月3日 (11日遅) |
| 05 ベニマシコ 4月3日 (4日早) | 06 キセキレイ 4月4日 (5日早) |
| 07 ウグイス 4月5日 (14日早) | 08 アオジ 4月8日 (18日早) |
| 09 モズ 4月11日 (同じ) | 10 オオルリ 4月14日 (14日早) |
| 11 メジロ 4月15日 (8日早) | 12 クロジ 4月15日 () |
| 13 ヤブサメ 4月17日 (2日早) | 14 トラツグミ 4月17日 () |
| 15 クロツグミ 4月18日 (7日遅) | 16 アカハラ 4月21日 (10日遅) |
| 17 コマドリ 4月21日 (4日早) | 18 エゾムシクイ 4月21日 (11日早) |
| 19 センダイムシクイ 4月21日 (4日早) | 20 イカル 4月21日 () |
| 21 ビンズイ 4月26日 (1日遅) | 22 キビタキ 4月28日 (2日早) |
| 23 ツツドリ 5月4日 (2日遅) | |

●シマエナガ：時々見られていますがたいい2羽で行動しています



旭山ミニ生き物図鑑 2026年5月



キタコフシの花が今年はずいぶん



ハウチワカエデの花と新葉



旭山都市環境林のエゾエンゴサク



旭山で減ったオオウバユリ新葉



展望台一本桜は今年も見事でした 2026年4月25日撮影
今年は4月末にはもう花びらが散り始め、花の時期が短かったです



公式サイト

「アカゲラ通信」 第150号 2026(令和8)年5月6日発行
(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所
<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目
電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351